

令和4年第8回狭山市定例教育委員会会議議事録

開催日時 令和4年8月24日(水)  
午後1時30分から午後3時42分まで

開催場所 市役所 5階 教育委員会室

出席者 教 育 長 滝 嶋 正 司  
教育長職務代理者 吉 川 明 彦  
委 員 橋 本 秀 樹  
委 員 宮 崎 英 子  
委 員 安河内 由 香

欠 席 者 なし

委員及び傍聴人を除くほか、議場に参加した者の氏名

生涯学習部長	内 藤 光 重	次長兼教育総務課長	關 根 浩 由
教育施設管理課長	竜 円 一 征	社会教育課長	石 井 巳代子
中央公民館長	内 出 智 美	中央図書館長	加 藤 和 子
スポーツ振興課長	奥 富 喜 和	学校教育部長	田 中 義 久
次長兼教育指導課長	宇佐見 昌 義	教育センター所長	今 福 雅 之
学 務 課 長	中 山 昭 夫	学校規模適正化担当課長	清 水 幹 記
入間川学校給食センター所長	小 巖 聖 明	書 記	神 田 崇 広

会議の公開・非公開 公 開

傍 聴 者 数 0名

報告事項

- ・令和4年度博物館秋期企画展の開催について

報告者(社会教育課長)

(要旨)

令和4年9月23日(金・祝)から11月27日(日)まで、狭山市出身の透明標本作家、富田伊織氏の作品展「新世界『透明標本』」を開催する。また、10月21日(金)には、富田氏の母校である狭山市立富士見小学校で記念講演会が予定されている旨の報告がなされた。

- ・令和4年度当初就学援助認定者数について

報告者(学務課長)

(要旨)

認定者数は、1,160名であり、昨年度に比べ45名の減となっている。減少の理由は、児童生徒数の減少に伴うものと捉えている。受給率は12.1%で昨年度に比べ0.2ポイントの減となっている。否認定者数は117名であり、昨年度に比べ5名増えており、否認定の理由は、所得基準の超過、必要書類の未提出、税の申告がなかったため等であり、所得基準の超過によるものが一番多い旨の報告がなされた。

- ・各種審議会等の会議結果概要について

報告者（入間川学校給食センター所長）

(要旨)

令和4年度第1回狭山市立学校給食センター運営委員会の開催結果について、その概要について報告がなされた。

委員からの質疑等では、原油価格・物価高騰等総合緊急対策の現状はどの質疑に、小麦や食用油の価格が高騰しているが、下がっている部分もあるので、思ったほどは給食費を圧迫していない旨の答弁がなされた。今後、給食費を上げるという考えはあるのかとの質疑に、今年度は、国の補助金を活用できるので、給食費は上げずに運営していく旨の答弁がなされた。

- ・狭山市教育委員会後援名義の使用行事について

報告者（社会教育課長）  
（スポーツ振興課長）  
（教育指導課長）

(要旨)

社会教育課関係1件、スポーツ振興課関係2件、教育指導課関係1件の後援名義使用承認の申し出があり、審査の結果、使用を承認した旨の報告がなされた。

委員からは、様々な団体からの使用承認の申し出があると思うが、その団体の活動内容も含め精査するよう意見がなされた。

## 議 案

### 議案第38号 令和4年度狭山市一般会計補正予算（第5号）－教育費

令和4年度狭山市一般会計補正予算（教育費）に関する議案を令和4年第3回狭山市議会定例会に提出するため、提案がなされたものである。

議案第38号については、原案可決した。

## 議案第 39 号 令和 3 年度狭山市一般会計歳入歳出決算（教育関係）

令和 3 年度狭山市一般会計歳入歳出決算（教育関係）について、市議会の認定を受けるため、提案がなされたものである。

委員からの質疑等では、歳入 19 款 1 項 7 目教育費寄附金について、個人からの寄附はあったのかとの質疑に、法人からの寄附はあったが、個人からの寄附はなかった旨の答弁がなされた。

歳出 3 項 3 目学校施設整備費の繰越明許費の内容はとの質疑に、入間野中学校・柏原中学校・狭山台中学校・山王中学校の生徒用トイレ改修工事費を令和 4 年度に繰り越したものである旨の答弁がなされた。繰越した理由はとの質疑に、年度末に国の補助金が前倒しで受けられたが、年度内に施工できないので繰り越した旨の答弁がなされた。

1 項 2 目事務局費中、奨学金貸与事業について、前年度決算額に比べ 39.07%の減となっている理由はとの質疑に、ほとんどの学生は、支援が充実してきた学生支援機構の方の貸与を受けており、市の奨学金まで申請するに至らず、申請・貸付件数が減っている旨の答弁がなされた。

1 項 3 目教育指導費中、教育指導支援事業について、前年度決算額に比べ 26.92%の減となっている理由はとの質疑に、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、国の補助を受け、スクール・サポート・スタッフ、わくわく支援員、アシスタントティーチャーを全校に増員して配置したが、令和 3 年度は、国の補助がなくなり、配置人数を元に戻したことが主な理由である旨の答弁がなされた。

2 項 1 目学校管理費中、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業について、前年度決算額に比べ約 90%の減となっている理由はとの質疑に、令和 2 年度は、臨時交付金を活用し児童 1 人 1 台の情報端末を整備したが、令和 3 年度はその分がなく減となった旨の答弁がなされた。

5 項 2 目文化財保護費中、指定文化財管理事業費補助金の補助割合はとの質疑に、補助率は 2 分の 1 である旨の答弁がなされた。

議案第 39 号については、原案可決した。

## 議案第 40 号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき令和 4 年度教育委員会事務事業点検評価を実施したので、提案がなされたものである。

教育委員からの質疑等では、成果目標の点検評価表中、L-3 の目標項目について、CEFR（セフアール）を基準にする理由はとの質疑に、実際に生徒に対する際の尺度は英検であり、文部科学省でも併記しているので、どちらにしなければいけないということはないが、社会一般的に基準となる CEFR を使用した旨の答弁がなされた。

英語の能力を図る尺度としては、CEFR が一般的になっていると理解してよいかとの質疑に、そのとおりであり、何か表記する際には、併記するよう心掛けている旨の答弁がなされた。

なお、委員からは、コロナ禍により令和2年度は事業がほとんど出来なかったが、令和3年度については、工夫をこらしながらできることから実施したものとする。数値目標については、毎年度厳しい指摘を受けるが、コロナ禍でも実施してきたことは評価できると思う。なお、達成済みの目標値については、変える必要があり、多くの知恵を集め対応してほしい旨の意見がなされた。

また、コロナ禍にある中、それなりの効果も多く出ていると思われる。社会が大きく変化する中、新たな課題を見つけ、先を見て着実にそれぞれの仕事を進めることが大事である旨の意見がなされた。

議案第40号については、原案可決した。

以 上